

東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索

安心・安全の医療・介護の実現を

今こそ社保協運動の出番 地域から反撃のたたかいを

中央社保協は、7月13・14日に第58回全国総会を開催し、「安心・安全の医療・介護を実現する大運動」を提起しました。そして、9月23日に大運動スタート集会（安心・安全の医療・介護を実現するシンポジウム）を開催して大運動を展開します。

今、安倍政権は、集团的自衛権の行使容認の閣議決定強行をはじめ、社会保障や雇用、教育など各分野で、憲法と世論を無視した大改悪攻撃を展開しており、働く人々や国民、地域社会は踏み台にされています。

容易ならざる事態であると同時に、広範な国民との矛盾はより深まらざるを得ません。



し、実際に顕在化しています。憲法を基礎に、安倍「暴走政治」を一刻も早くストップさせる国民的な共同づくりが強く求められています。

社会保障分野では、三党合意による「税と社会保障の一体改革」に基づいて、社会保障制度改革推進法とプログラム法が制定され、自己責任と営利化を基調にした大改悪攻撃が全面展開されています。

医療・介護総合法の強行によって、国の責任を棚上げし、社会保障の抑制・改悪を地方自治体と住民の自己責任で遂行させる仕組みづくりがすすんでいます。医療・介護・年金は「自助の共同化としての保険制度」への変質が企まれており、小泉「構想改革」を質的にも超えた社会保障解体攻撃といわなければなりません。

今こそ社保協運動の出番の情勢であり、「社会保障解体は許さない、憲法を全面的にいかして社会保障の充実を」という世論と運動を、地域から、切実な実態告発、要求掘り起し、自治体交渉などで総反撃していくことを強く呼びかけます。

年金と暮らしを守れ20万請願運動にご協力を

1年半の間に3回、合計2・5%の年金削減が昨年10月から開始されるなかで、年金者組合は、不服審査請求運動を呼びかけ、年金者組合だけでなく全国で12万6千人を超える人達が不服審査請求書を提出しました。

しかし、私たちの切実な願いは無視され、いま各地方厚生局から却下通知が届けられています。

これに対する再審査請求を行いながら年金者組合は、新たに安倍首相に直接請願する20万請願運動を提起し、全国各地で取り組みが始まっています。

請願項目は、年金削減中止と「マクロ経済スライド」の廃止、最低保障年金の実現、年金保険料納付期間延長と年金支給開始年齢の引き上げの中止、消費税増税中止などです。

いま進められようとしている年金制度の改悪は、高齢者だけの問題ではなく、現役世代の老後にも大きな打撃を与えるものです。

この請願は、年金受給の有無に係りなく、誰でも参加できます。おおぜいの皆さんのご協力をお願いします。

年金者組合本部副委員長

堀口 和男

各地域・団体の取り組み

渋谷社保協

8月5日、渋谷社保協は東京土建渋谷支部で第23回総会を開催し33人が参加しました。

総会は、福井会長のあいさつに続き、東京社保協事務局次長の相川和義さん、民主党区議の治田学さん、共産党区議の菅野茂さんが連帯あいさつを行いました。

嘉瀬事務局次長が活動報告・方針を提案。討論では、代々木総合法律事務所の新駒弁護士が集团的自衛権反対と相談活動に参加して「相談会での法律相談は盛況だが、生活困窮は法律だけで解決できない。政治を変えることの必要性を



痛感する」と発言。区労連からは「労働者の暮らしを守るためにも社会保障を闘争課題に位置付けていく」と決意表明があり、東京土建から、消費税をなくす取り組み報告と「11月に大宣伝をしよう」とのよびかけがありました。

最後に、地域の中で引き続き、相談会活動、区議会請願、学習会などを旺盛に取り組み、集团的自衛権行使と消費税増税、社会保障改悪を許さず「私たちの住んでいるところは、私たちの責任でよくしていこう」の方針と新役員と予算を全体で確認し奮闘を誓い合いました。

記念講演では、東京社保協の相川さんから、医療・介護総合法で医療がどう変えられるようとしているか。公費削減のための大幅な入院病床の削減と在宅誘導、保険範囲縮小による受診制限、自己負担拡大など、予定されている改善計画をわかりやすく報告され、学習活動、地域の実態をつかみ、改善運動を強め、改悪に対して反撃しようと呼びかけました。

最後に、総会アピールを採択し、伊藤副会長が「今を生きる責任を自覚し、命・くらしを守る大運動をしよう」と閉会あいさつを行い、総会を終了しました。

(渋谷区労連ニュースより)

葛飾社保協

葛飾区が打ち出した保健センター廃止(当面高砂と小菅の廃止)の方針に対して、小菅や高砂の地域では、存続を求める運動や、守る会の運動が急速に高まっています。すでに9月議会をめざして

取り組まれている署名活動では、高砂・小菅地域を中心にすでに5千筆の署名が集められています。

保健センターを守る 葛飾連絡会を結成

こうした中、7月11日に「保健センターを守る葛飾連絡会」の結成総会が開かれ、参加した70人の満場一致で連絡会が発足しました。

結成総会では、運動が先行している小菅・高砂地域の取り組みや、総会当日に行われた葛飾区との要請交渉の状況などが報告されました。また、15人の方々から発言があり、子育て中のママさんの声や高齢者の切実な発言など、なんとしても保健センターを守り抜こうという意気高い結成総会となりました。なお、会の事務局長に、葛飾社保協事務局長の吉野五郎さんが選出されました。

(葛飾社保協ニュースより)

中野社保協

「年を取ることは罪ですか」

7月30日に開かれた中野社保協の総会記念講演会。NHKスペースナル「老人漂流社会」を制作したチーフプロデューサーの板垣淑子さんは、血縁・地縁が薄くなり、一人暮らしの高齢者の増加と貧困化が顕著になったと講演をはじめました。

「老人漂流社会」シリーズの番組の一部を上映しながら、大病をきっかけに一気に生活が困窮し、家族の介護がなかったため、また、生活保護を受給するため

に自宅を手放すなどをして、自宅に戻れず施設から施設へ漂流が始まる。今の日本は、自分では選べない終のすみかに送られる時代だと話しました。

1人暮らしほど自分からSOSを発しない、また発せない状況があり、その背景の一つに認知症がある



と指摘。「申請しなから必要なサービスが届かず救えない」と

行政の申請主義を批判しながら、高齢者が相談できる地域包括支援センターをもっと活用しようとよびかけました。

あるUR集合住宅では、月500円のゴミ捨てボランテアが小学生に人気で、孤立しやすすい高齢者が、子どもとあいさつするようになり、高齢者の異変が子どもからお母さんに伝わりやすくなった取り組みや、「勝手にラジオ体操」から人のつながりが広がったなど、元気が出る孤立予防の取り組みを紹介しました。

総会記念講演には、中野区内外の居宅介護支援事業所や病院地域連携室などのスタッフも含め95人が参加しました。質問に答えながら板垣さんは「憲法9条と25条の番組を作りたいという思いが強い。社会が動いたと思えるまで制作を続けたい」と話し、大きな拍手がおこりました。

中野社保協の総会では、来春の中野区議会選挙に向けて、区政を変えるため、区政の動きを詳細につかみ、批判的に分析するシンポジウムを開く方針を決めました。

(事務局長 塚本 晴彦)

第42回中央社会保障学校

9/25(木)~9/27(土)

通し参加 31000円 **参加費**
フィールド参加者 33000円

岩手・花巻温泉「ホテル花巻」

〒025-0304
花巻市湯本1-125 0198-37-2180

参加申し込みは、参加申込書に記入の上、下記までFAXして下さい。

※FAX 03-5808-5345

※宿泊される方は0198-27-2911

(花巻温泉担当：松田)にもファックスして下さい)

主催：中央社会保障推進協議会

第2回地域社保協事務局長会議

日時・会場

三多摩地域事務局長会議

10月2日(木) 13:30~16:00
地域保健企画ビル2階(1階は多摩薬局)

23区事務局長会議

10月3日(金) 13:30~16:00
東京労働会館5階会議室

<議題>

- ①70~74歳の医療費助成制度の陳情
- ②シルバーパスの拡充
- ③安心・安全の医療・介護大運動
- ④就学援助問題
- ⑤地域社保協の交流
- ⑥その他

